

持続可能な公共交通体系の構築と慢性的な交通渋滞の緩和に向けて、公共交通への移動手段転換と流入交通の平準化を図る

テーマ1.公共交通への移動手段転換（利用促進）と流入交通の平準化

現状

- 公共交通の利用者減少が、交通事業者の経営悪化、サービス低下を招く負のスパイラルに陥っている
- 定時性（遅れ）や運行間隔（待ち時間の長さ）などが公共交通に対する不満として高い。また、乗り換えが不便・面倒、自家用車やバイクの方が所要時間が短いなどが、公共交通を利用しない理由としてあげられている
- 自家用車による慢性的な交通渋滞が発生しており、特に朝夕のピークタイムの渋滞が深刻である。一方で、同時間帯は公共交通の利用率も高い傾向にあり、市電などで需要超過の状況が発生している

目指す姿

- 誰もが安心して移動できる**持続可能な公共交通**を実現する
- 流入する自家用車の量を減少させることで、慢性的な**渋滞を緩和**させる



解決したい課題

- ① 市民の**公共交通に対する不満や不便さを可能な限り解消**することで、**公共交通への転換**を促したい
- ② **特定の時間帯や場所に集中する交通の分散**により、**流入交通の平準化**を図りたい

【関連する取組】バスきたくまさん（バスロケーションシステム）、バス・電車100円ウィーク、IC共通定期券、市電沿線バス運賃均一化、パークアンドライド駐輪場、公共車両優先システム(PTPS)（※事業者主体の取組含む）